

2017年6月10日(土)
日本人口学会第69回大会
東北大学青葉山北キャンパス(仙台市青葉区)

公開シンポジウム

テーマ：東北の人口問題—過去、現在、そして未来？

趣旨：現在の国立社会保障人口問題研究所の前身ともいえるのが、戦前に設立された人口問題研究会であった。その研究会が1941年に、仙台市で大々的に開催したのが、人口問題東北地方協議会であり、その主題は東北の人口問題であった。ここでの協議会の記録は、その後、人口問題研究会が「東北人口」としてまとめている。

そこにまとめられた論文の著者の中には、後の人口問題研究所所長の館稔、東北大学理学部地理学教室の創始者ともいえる、田中館秀三をはじめ、東北大学の医学部、法文学部の教員が数多く含まれていた。

この時期にこのような大々的な人口問題地方協議会が東北地方で開催されたのは、その当時のいわゆる「産めよ増やせよ」という人口政策の下、東北地方には、兵力としての壮丁の供給が期待されていたためといえる。また、1933年の三陸津波、その後の冷害による凶作など、東北地方の産業・経済が大きく後退あるいは停滞し、東北振興が国是となっていたためともいえる。

今回の東日本大震災とそれに続く原発事故によって、東北地方の人口は大きな影響を受けており、その将来を考える上でも、これまで、東北地方は災害に対してどのような対処してきたのかを検討することが重要と考えた。シンポジウムでは、東北地方の過去の自然災害(飢饉、冷害、津波)についての講演、東日本大震災による東北地方の人口変動に関する講演、東北地方の将来人口に関する講演などを行い、それをもとにして、東北地方の人口問題が、日本の人口問題と直結しているという視点から、議論を行っていききたい。

組織者::阿部隆(東北大学・院)

座長:原俊彦(札幌市立大学) 討論者:鬼頭宏(静岡県立大学)

1. 飢饉のダメージ、飢饉から立ち直る—江戸期北東北の場合—

菊池勇夫(きくち いさお 宮城学院女子大学)

2. 三陸沿岸の港の盛衰—災害と漁業の歴史—

川島秀一(東北大学)

3. 東北地方の人口問題の現在—人口問題からみた東日本大震災からの復興の行方—

阿部隆(東北大学・院)

4. 平成27年国勢調査と比較した社人研地域人口推計の精度検証—東北地方を中心として—

小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)・山内昌和(早稲田大学)